



八雲町社協だより

共に助け合い、共に支え合う、安心して暮らせる
あたたかい福祉のまちづくりを目指して

迎春 2024 辰



年頭のご挨拶

八雲町社会福祉協議会

会長 大野 尚 司

新年あけましておめでとうございます。
令和六年の希望に満ちた新春を、清々しく迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。また、日頃から社会福祉協議会の事業・活動推進及び運営につきまして、温かいご支援とご協力を賜り、役職員を代表いたしました心より厚くお礼申し上げます。

令和二年初頭より未だに終息の見えない「新型コロナウイルス感染症」が全国的に感染拡大し、ここ数年、当社協各種事業も開催中止を余儀なくされた状況にありました。しかしながら、令和五年度は「ふれあいひろば」や「八雲町社会福祉大会」など、感染拡大防止に配慮し、開催することができ、徐々にはありますが、通常に戻りつつあることを実感しているところであります。

さて、地域を取り巻く環境はめまぐるしく変化をし、少子高齢化や核家族化、生活困窮者等さまざまな問題が挙げられるようになり、地域課題への対応に当たっては、公的な制度に基づくサービスや支援だけでなく、地域の人たちの互いに支え合う地域づくりが大切とされています。

その中で八雲町社会福祉協議会では、令和五年度から五カ年計画として、これからの地域共生社会への実現に向けた「新四期地域福祉実践計画」を策定したところであります。この計画を基軸に基本理念であります『ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくり』の実現に向けて尽力してまいりますので、町民の皆様、関係団体のご指導・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

新しい年を向かえるにあたり、各種事業や行事を充実させ、町民の福祉向上に寄与できるよう役職員一同、力を合わせて積極的に取り組んでまいります。

結びに、令和六年が皆様にとって幸多き一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

第8回 八雲町社会福祉大会



例年にくらべると、穏やかな気候となった去る令和五年一月三日(日)、第八回八雲町社会福祉大会がシルバープラザで開催されました。

はじめに社会福祉関係物故者に対し黙とうが捧げられ、大野会長より誰もが住み慣れた家庭や地域で自分らしく暮らせるまちづくりを実現することは、みんなの願いであり、より良い地域福祉や在宅福祉づくりを共に考え、この大会がその契機となることを念願すると式辞が述べられました。

表彰式では、多年にわたり社会福祉の向上にご尽力された一五名の方々に対し表彰状が授与されました。

受彰者を代表して小林幸子氏から、日々ごく自然に地域のために活動してきたこと、困っている人に接してきたことが、思いがけなく表彰の栄に浴しましたこと、また皆様よりたくさんのお祝いの言葉を賜り恐縮いたしておりますとの、お礼の言葉がございました。

実践報告では、八雲警察署刑事・生活安全課生活安全係長

山田剛 氏より、日常を脅かす特殊詐欺の実態とその防止策について、八雲町における被害状況や、被害にあわないための対処方法を、DVDを交えながらお話いただきました。

もし、怪しい電話がかかってきたら、北海道の人はやさしく話を聞こうとしてくれるが、電話を切る勇気をもってほしいと訴えた。



が、今は七五歳からが高齢者。一〇〇歳まで生きるとして、リ

タイヤ後の自由な時間は約十時間、シニアには時間がある。その時間を有意義に過ごすために、やりたいこと探しをする。

子どもの頃、若い頃、中年になってからしたかったこと、やり残したことを思い出し、自分の歴史を振り返る。趣味や旅行、死ぬときに後悔しないよう、健康を大切に。自分のやりたいことをやる。夢をかなえる。故郷に帰る。美味しいものを食べる。行きたい場所に行く。会いたい人に会う。愛する人にあるがとうと伝えてみるとの話があり、詩人サムエル・ウルマンの詩を現代風に読み替え、三〇代の青年より七〇代、八〇代の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いると締めくくりました。

終わりに、八雲町町内会等連絡協議会副会長知野修司様より、住民同士が支え合う、地域社会の一員として自ら参加し、協力し合う地域を創り上げようと、大会宣言を採択し社会福祉大会を終了しました。



記念講演では、元北海道新聞編集委員 福田淳一 氏をお招きし

『人生一〇〇年時代を生きるヒント』と題し、少し前は高齢者と言

われる年齢は六五歳からだった



受賞おめでとうございます。

社会福祉事業功労者に対して功績を讃え、表彰状を送り感謝の意をあらわしました。

また、北海道共同募金会会長表彰の伝達も行いました。ここにご芳名を掲げて、心からの敬意を表します。

【八雲町社会福祉協議会会長表彰】
 ☆ 福祉団体の役員として永年勤め、その功績顕著なもの

- 小林 幸子 (落部)
- 目谷 朝子 (熊石根崎町)
- 伊藤 義親 (落部)
- 片平 紀子 (東雲町)
- 長澤 知子 (落部)
- 伊藤 久美子 (落部)
- 岩崎 富志江 (黒岩)
- 佐藤 ミヤ子 (熊石平町)
- 輪島 恵美子 (熊石豊岩町)

☆ 八雲町社会福祉協議会の職員として、二十年以上勤続し、熱誠職務に奉仕したもの

- 工藤 美保 (東野)

【伝達】
 ☆ 北海道共同募金会会長表彰

- 小林 幸子 (落部)
- 目谷 朝子 (熊石根崎町)
- 伊藤 久美子 (落部)
- ツルハドラッグ八雲本町店
- ツルハドラッグ八雲店

【敬称略、順不同】



令和5年度 八雲町社会福祉協議会役職員先進地視察研修

1月6日～7日2日間にわたり、役職員研修視察を行いました。

1日目はケアラー支援について、先駆的に行っている栗山町社会福祉協議会を視察させていただきました。

栗山町社協では、平成22年度からケアラー支援に取り組んでおり、実態調査を行ったところ、全世帯のうち15%が支援が必要とわかり、そのうちの60%が心や体になんらかの疾病があったとの事でした。

経済的な悩み、買い物、通院ができない、友達にあえない、地域の活動に参加できない、社会から孤立していると感じていることがわかり、その対策として、既成のサービスに加え、情報システムやロボットの活用、町民が参加する新しい体制づくりに挑戦することが必要と考えており、当社協でも新たな活動への参考とさせていただきました。

また2日目には、札幌市が経営するリサイクルセンターを視察し、不要となったタンスやテーブル、自転車等職員が補修・修繕し、低価格で販売するという、市民が協力し合い資源物の再利用を行っていました。

少し手をかけることで、まだまだ使えるものがたくさんあると、リサイクルの必要性を再認識することができました。

今回の研修を活かし、町民により必要とされる社協となれるよう、役職員一丸となって、課題に取り組むことを心新たに、研修を終えました。



第7回 渡島噴火湾社会福祉協議会連絡会議

令和5年10月27日（金）に、渡島噴火湾に位置する近隣4町社協による連絡会議を八雲町で開催しました。（長万部町、八雲町、森町、鹿部町）

研修では、北海道社会福祉協議会 地域共生社会推進部長 中村健治氏に『ケアラー支援について考える～社協の役割と意義～』をテーマに、社会問題としてクローズアップされてきた「ケアラー・ヤングケアラー」問題について、その背景とは何か、また、どのような人（子ども）なのか、そして、現状と抱える課題を理解し、求める支援について考えるとともに、社協の役割と意義について、講演していただきました。

その後、情報交換会に入り、各町の様々な課題や福祉の推進について活発な意見が交わされ、各社協役職員の交流・親睦が図られました。



赤い羽根共同募金



赤い羽根共同募金運動が10月1日～12月31日迄行われ、町民皆様から善意の募金が集まってきております。

令和5年11月30日現在の途中経過をご報告致します。



2,506,972円

(目標額 3,600,000円)

内訳：戸別募金	1,340,179円
街頭募金	132,577円
大口募金	958,099円
その他	76,117円



令和5年度 渡島管内ボランティア活動 研究協議会開催

長らく対面開催が中止となっていた、渡島管内ボランティア活動研究協議会ですが、11月9日(水)、北斗市かなで〜るにて開催されました。

八雲からは11名のボランティアが参加しました。

渡島管内で活躍しているボランティア団体紹介があり、函館市『函館マジッククラブ』、知内町『知内町有償ボランティアの会』、木古内町『木古内町社会福祉協議会ボランティアセンター』の3団体の紹介があり、他の地域のボランティアの活躍、課題等をお話いただきました。

また、講演では『苫小牧市社協 地域のチカラ〜だけボラについて〜』をテーマに苫小牧市社協地域福祉課総合支援室長千寺丸洋氏の講演がありました。

「これだけ」ならできる、地域にいるその部分だけ手伝ってもらい、生活をより良くしていき、支え合っていくことを目的にしたボランティア事業で、活動内容、事例などを講演していただきました。

No.31

ボラ通



子ども食堂視察

去る12月8日(金)、函館市にある北海道国際交流センター(HIF)が運営する『にこにこ子ども食堂』へ、八雲町ボランティア連絡協議会役職員で視察に行ってきました。

にこにこ子ども食堂は毎週金曜日16:30〜18:00開催され、子ども無料、大人300円でイートインもしくはテイクアウトで食事を提供しており、材料のほとんどはフードロスからの寄付で作られています。

今後、当ボ連協でもフードロス、貧困等への支援活動に取り組むことができるよう考えております。

調理風景

テイクアウト用の
お弁当

☆ホームヘルパー(臨時職員)の募集について

八雲町社会福祉協議会熊石支所では、ホームヘルパー(臨時職員) 1人を募集しています。

- ◇業務内容 訪問介護業務で入浴、食事、通院介助等の身体介護や調理、洗濯、掃除、買い物等の生活援助を行います。
- ◇勤務時間 午前8時30分～午後5時00分
- ◇勤務先 八雲町社会福祉協議会熊石支所
- ◇応募資格 町内に在住し、普通自動車運転免許が必要(AT限定車)
介護福祉士又はヘルパー2級の有資格者(取得見込可)
- ◇採用時期 随時
- ◇申込要領 所定の用紙で申し込みをしていただき書類選考後、面接を実施

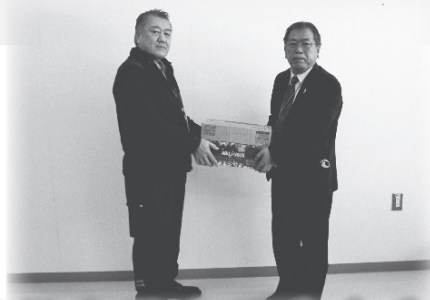
※問い合わせ

八雲町社会福祉協議会 Tel(0137) 64-2112
八雲町社会福祉協議会熊石支所 Tel(01398) 2-2816

令和5年12月14日に北海道コカ・コーラボトリング株式会社様より、地域貢献活動の一環で、八雲社協本所、支所へ合わせて飲料水13箱の寄贈がありました。

当社協から八雲町の各福祉施設へ、クリスマスプレゼントとして配付させていただきました。

ありがとうございました。



社協活動メモ

十月

- ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律による実地指導
- ・第四回理事会
- ・八雲ボランティア研修旅行 二セコ町
- ・令和五年度渡島地区地域支え合い活動推進セミナー 北斗市
- ・令和五年度第七回渡島噴火湾社会福祉協議会連絡会議

十一月

- ・令和五年度渡島管内社協職員連絡協議会第三回役員会・令和五年度第二回渡島管内社協職員連絡協議会研修会 函館市
- ・八雲町社会福祉協議会役職員先進地視察研修 栗山町
- ・八雲町日常生活自立支援事業生活支援員研修会
- ・令和五年度渡島管内ボランティア活動研究協議会 北斗市
- ・生活支援体制整備事業に係る協議体
- ・第一回八雲総合病院運営検討会議

十二月

- ・令和六年度第一回八雲町民生委員協議会定例会
- ・第八回八雲町社会福祉大会

皆さんの温かい善意のご寄付ありがとうございました
ボランティアセンター(愛情銀行)

令和5年10月16日～令和5年12月15日(順不同・敬称略)

一般寄付

- ・八雲商工会 (令和4年度より継続) 47,652円
- ・第一清掃(有) (昭和54年度より継続) 18,373円
- ・余湖時子 熊石平町 30,000円

物資寄付

- 北海道コカ・コーラボトリング(株)八雲営業所 飲料水13箱
- (昭和59年度より継続)

会報第七十二号

八雲町社協だより

令和六年一月一日発行

二海郡八雲町栄町十三一
社会福祉法人 八雲町社会福祉協議会

FAX ☎ 0137-6364-2112
0137-6364-2112
0137-6364-2112
0137-6364-2112
0137-6364-2112